

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和6年7月31日※1
(前回公表年月日: 令和5年10月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
中央動物看護専門学校	平成17年3月28日	田村 浩之	〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-43-27 (電話) 027-253-7211																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 有坂中央学園	昭和40年12月24日	理事長 中島慎太郎	〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-1 (電話) 027-256-7000																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化教養専門課程	動物看護学科	平成25年度 専門士告示第7号	—																											
学科の目的	国家資格愛玩動物看護師の習得を目標として、様々な動物業界に対応できる専門的な知識・技術を学ぶ。更に、インターンシップ実習を通して診療補助や接客、飼育管理、グルーミングなどの幅広い実務能力を習得する。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3	3	2490時間	1170時間	180時間	1140時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
90人	47人	0人	4人	11人	15人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末における筆記試験を実施すると共に授業出席率、受講態度及び課題提出物等を総合的に判断し、評価する。																											
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 8月 9日～ 8月29日 ■冬季: 12月24日～ 1月 6日 ■春季: 3月18日～ 4月11日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級 条件	所定の修業年限以上在学し課程を修了したもの																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導については、随時連絡を取り、面談指導を行う。		課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動、ボランティア活動、各委員会(飼育管理、校内美化)、各実行委員(イベント運営) ■サークル活動: 無																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 卒業生なし。 ■就職指導内容 就職スタートアップ講座、履歴書指導、個別面談、面接指導。 ■卒業者数 - 人 ■就職希望者数 - 人 ■就職者数 - 人 ■就職率 - % ■卒業者に占める就職者の割合 - % ■その他 (令和 5 年度卒業生に関する 令和6年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー検定3級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>ペットフード・マナー検定</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人資格</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士1級	③	3人	3人	愛玩動物飼養管理士2級	③	33人	30人	社会人常識マナー検定3級	③	38人	31人	ペットフード・マナー検定	③	24人	24人	損害保険募集人資格	③	15人	13人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
愛玩動物飼養管理士1級	③	3人	3人																												
愛玩動物飼養管理士2級	③	33人	30人																												
社会人常識マナー検定3級	③	38人	31人																												
ペットフード・マナー検定	③	24人	24人																												
損害保険募集人資格	③	15人	13人																												
中途退学 の現状	■中途退学者 5名 令和5年4月 1日時点において、在学者37名(令和5年4月 1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者32名(令和6年3月31日卒業生を含む)		■中途退学率 13.5%																												
	■中途退学の主な理由 学力不振、精神的不安定、家庭の事情																														
	■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、学習目標の設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、自宅訪問。																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 有坂奨学金基金支給制度: 社会人入試で受験した学生対象に学園が年間10万円の奨学金を支給する制度。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.chuo.ac.jp/can/																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図るために、本学科と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は、学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめるとともに、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。また、委員会で出された意見は、カリキュラム委員会において検討し、教育課程へ反映される。

- (1) 授業科目の開設に関する事項
- (2) 授業内容に関する事項
- (3) 授業方法の改善・工夫に関する事項
- (4) 教員の実務研修に関する事項
- (5) 学校関係者評価に関する事項
- (6) その他学科及び専門学校の教育に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
遠山 真大	NPO法人日本動物愛護福祉協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	①
奥野 征一	ACORN 獣医神経病クリニック 院長		③
木村 愛美	藪塚動物病院		③
田村 浩之	中央動物看護専門学校 学校長		
小川 潤	中央動物看護専門学校 副校長		
原田 文博	中央動物看護専門学校 教務部次長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 原則、9月・3月

(開催日時)

令和5年度	第1回	令和5年	9月20日	13:30～15:30	開催済み
令和5年度	第2回	令和6年	2月28日	13:30～15:30	開催済み
令和6年度	第1回	令和6年	8月27日	13:30～15:30	開催予定
令和7年度	第2回	令和6年	2月26日	13:30～15:30	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改定案や今後の検討課題を具体的に明記。

今後、愛玩動物看護師国家資格については難易度が上昇することが予想される。これにより合格率が下がる事も予想される。今年度の在校生は受験対象では無いためブランクの年度となるが、今年度の試験問題の出題傾向を分析し、次年度受験対策に備えることがとても重要となる。国家試験に向けた授業の進め方についても検討していきたい。昨年度の国家資格合格者について合格後の申請登録が必要となるが、未登録者が多数存在している状況もあるので、申請登録方法についてしっかり認知させたい。動物の高齢化に伴う認知機能の低下治療やリハビリの必要性が高まる。それらをサポートするのは理学療法士や愛玩動物看護師のためそれら結び付けるリハビリに特化する方法も模索していく必要がある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科の目的に沿った授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行うため企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業との連携を深め、シラバス(講義概要 目的・指導方法・評価方法)に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。実習・演習の修了時には、実習・演習担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等

動物臨床検査学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	ACORN 獣医神経病クリニック
-----------	---	------------------

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行なうため教育研修規定を定め、企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識及び技能並びに授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のため組織的に研修機会を確保する。

(2) 研修等の実績

- ① 専攻分野における実務に関する研修等
- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 研修名: 症例から学ぶ周術期麻酔疼痛管理の実践 | 連携企業等: 群馬県獣医師会 |
| 期間: 令和6年1月28日 | 対象: 動物看護学科職員 |
| 内容: 始業点検から術後疼痛管理までを学ぶ | |
| 研修名: 狂犬病委について考える | 連携企業等: 群馬県獣医師会 |
| 期間: 令和6年2月4日 | 対象: 動物看護学科職員 |
| 内容: 狂犬病予防法の歴史と集合注射の役割について学ぶ | |
- ② 指導力の修得・向上のための研修等
- | | |
|--|---------------------|
| 研修名: 発達障害を考える～スペクトラムという視点から～ | 連携企業等: みどりクリニック |
| 期間: 令和5年12月20日 | 対象: 全教職員 |
| 内容: 発達障害について広い視点から考え、理解を深める。 | |
| 研修名: 新任教職員研修 | 連携企業等: 群馬県専修学校各種連合会 |
| 期間: 令和6年3月12日～3月13日 | 対象: 令和6年度入職教員 |
| 内容: 教員の役割、授業の組み立て方、模擬授業の実施と評価を行い、教員としてのスキルアップを目指す。 | |

(3) 研修等の計画

- ① 専攻分野における実務に関する研修等
- | | |
|---|-------------------|
| 研修名: 動物内科看護学実習の指導について | 連携企業等: 日本獣医生命科学大学 |
| 期間: 令和6年8月9日 | 対象: 動物看護学科職員 |
| 内容: 現場でも動物看護師が多く担当する採血・皮下注射の学生への指導法ならびに教材の作成に参加 | |
- ② 指導力の修得・向上のための研修等
- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 研修名: 職業特性を考慮した非認知能力の育成・評価 | 連携企業等: 福岡大学人文学部教授 |
| 期間: 令和6年8月9日 | 対象: 全教職員 |
| 内容: カリキュラムの改善及び教職員の教育力の向上に資する研修に参加 | |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、学校の自己評価を実施したうえで、企業等が学校関係者として評価に参画する「学校関係者評価」の実施及び公表を行い、その結果を踏まえた学校運営の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3) 教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4) 学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5) 学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
(6) 教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8) 財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11) 国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

外部の学校関係者評価委員に上記1項目に対し報告を行ったところ、委員による評価は良好であった。中央動物看護専門学校の教育理念・目標についての取り組みは概ね達成しているが、業界研究について業界自体が変わってきているので、関連企業や関連団体などまで広い視野を持っていただきたいとの指摘をいただいた。学修成果について卒業後のキャリア形成として既卒者に対する知識的なサポートや新たな情報等を示す取り組みも良いとの指摘をいただいた。これら指摘事項を踏まえ、社会から求められる人材の育成を継続し、新たな知識・技術を積極的に取り組み反映させる。また、既卒者のキャリア形成への効果を確認し社会人としてのスキルアップに結び付けていきたい。今後、動物業界の変化に柔軟に対応しながら教育目標・計画を設定し、それに沿った教育として「やって見て考える」を実践できる環境づくりを強化することが求められる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
奥野 征一	ACORN獣医神経病クリニック 院長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
富岡 健一郎	NPO法人犬の総合教育社会化機構理事		企業等委員
鈴木 正知	NPO法人前橋環境保全基地 アリスの森 代表理事		企業等委員
松本 州史	東京理器株式会社代表取締役		企業等委員
木村 愛美	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
天沼 華奈	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
滝澤 健太	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
神田 宏	中央動物看護専門学校 保護者会会長		保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

令和6年7月公表(学校関係者評価委員会開催後、1ヵ月以内に公表する)

<http://www.chuo.ac.jp/can/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」を踏まえ、企業等の関係者の理解を深め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資する専門学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等の取り組みを行なう。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2) 各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学生数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3) 教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7) 学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
(8) 学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11) その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ガイドラインの項目	情報提供方法
(1) 学校の概要、目標及び計画	HPに記載・校内に掲示・シラバスに記載
(2) 各学科等の教育	HPに記載・シラバスに記載・学生生活の手引きに記載
(3) 教職員	HPに記載・組織図に記載・研修計画に記載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	HPに記載・学園新聞の発行
(5) 様々な教育活動・教育環境	HPに記載・学園新聞の発行
(6) 学生の生活支援	HPに記載
(7) 学生納付金・修学支援	HPに記載
(8) 学校の財務	HPに記載・閲覧にて公開
(9) 学校評価	HPに記載
(10) 国際連携の状況	HPに記載・学園新聞に掲載
(11) その他	校内に掲示

<http://www.chuo.ac.jp/can/>

授業科目等の概要

（文化教養専門課程 動物看護学科 ）令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1 通年	120	4	○			○		○		
○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			動物関連法規	動物の獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染所防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅰ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			動物外科看護学Ⅰ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			愛玩動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	1 通年	60	2	○			○		○		
合計				10科目		420単位時間（ 14単位）									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物内科看護学実習Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 通年	60	2			○	○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 後	30	1			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅰ	診察室での飼い主対応や処置室での臨床症例を見学することで、実践に役立つ知識や技術を習得する。	1 後	60	2			○		○	○		○
○			グルーミング実習Ⅰ	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース（各部バリカン、部分カット含む）を習得する。	1 通年	180	6			○	○		○		
○			しつけトレーニング実習Ⅰ	子犬や成犬の各ステージにおけるトレーニング方法や問題行動予防方法を身に付ける。	1 後	30	1			○	○		○		
○			検定対策Ⅰ	社会人常識検定では、基本的な社会の仕組み、コミュニケーション力やビジネスマナーなどの社会人として必要な基本的知識・技能を習得する。愛玩動物飼養管理士では、ペットの習性や正しい飼い方、動物関連法規、動物愛護精神などを多くの人に広める能力を身に付ける。	1 前	30	1			○	○		○		
○			就職実務Ⅰ	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。又、職場体験に向けての準備をする。	1 前	30	1	○			○		○		
○			特別課外授業	学校行事やボランティアなどの参加、運営を通じてチームワークの大切さや協調性および積極性を身につける。	1 通年	60	2			○		○	○		
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	2 前	30	1	○			○		○		
○			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	2 通年	60	2	○			○		○		
合計				10科目		570単位時間 (19単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2後	30	1	○			○			○	
○			動物感染症学Ⅱ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	2通年	60	2	○			○			○	
○			動物内科看護学Ⅱ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	2前	30	1	○			○			○	
○			動物外科看護学Ⅱ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2前	30	1	○			○			○	
○			動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2通年	60	2	○			○			○	
○			動物医療コミュニケーション	動物病院業務において、飼い主やスタッフと円滑なコミュニケーションスキルを身につける。受付業務の流れやポイント、ペット保険等についても学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			適正飼養指導論	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	2通年	60	2	○			○			○	
○			ペット関連産業概論	ペット関連産業に従事者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○	
○			動物内科看護学実習Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	30	1			○	○			○	
○			動物臨床検査学実習	検体検査及び生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2通年	60	2			○	○			○	○
合計				10科目	420単位時間 (14単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護学科) 令和6年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	30	1			○	○		○			
○			動物臨床看護学実習Ⅰ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	30	1			○	○		○			
○			動物愛護・適正飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	2後	60	2			○	○		○			
○			動物看護総合実習Ⅱ	事前に目標を設定し、動物病院で実際の動物看護業務を体験する。身につけた知識や技術を総合的に実践し、実習を通じて学んだことや課題を見つけ、次に繋げる為の考え方を修得する。	2後	30	1			○		○	○		○	
○			グルーミング実習Ⅱ	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。	2前	90	3			○	○			○		
○			しつけトレーニング実習Ⅱ	犬の学習理論に基づいたトレーニングの実践。併せて他人に説明をするためのインストラクションテクニックを身につける。	2前	30	1			○	○			○		
○			検定対策Ⅱ	ペットフード・ペットマナー及びペット栄養管理士試験の出題傾向を認識し、さまざまな過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。	2前	30	1		○		○			○		
○			就職実務Ⅱ	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する。	2後	30	1	○			○			○		
○			特別課外授業	学校行事やボランティアなどの参加、運営を通じてチームワークの大切さや協調性および積極性を身につける。	2通年	60	2			○		○	○			
○			生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	3前	30	1	○			○			○		
合計				10科目	420単位時間 (14単位)											

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			比較動物学	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理方法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示物の個体・群管理について学ぶ。	3 通年	60	2	○			○	○			
○			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3 通年	60	2	○			○			○	
○			公衆衛生学	環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	3 通年	60	2	○			○		○		
○			動物内科看護学Ⅲ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3 前	30	1	○			○		○		
○			動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	3 通年	60	2	○			○		○		
○			人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。	3 前	30	1	○			○		○		
○			動物生活環境学	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ドッグラン、保護収容施設など各種施設での整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去するための方法や飼育マナーについて学び、人とペット共生のため生活環境のあり方を理解する。	3 後	30	1	○			○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	3 後	30	1			○	○		○		
○			動物内科看護学実習Ⅲ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	30	1			○	○		○		
○			動物外科看護学実習Ⅲ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得する。	3 後	30	1			○	○			○	
合計				10科目	420単位時間(14単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（文化教養専門課程 動物看護学科 ）令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3前	30	1			○	○		○		
○			動物看護総合実習Ⅲ	今までの学習の成果を発揮し、内定を頂く。	3前	90	3			○		○	○		○
○			グルーミング実習Ⅲ	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。	3前	90	3			○	○		○		
○			国試対策	愛玩動物国家資格に向けて、弱点の克服、さらなる内容の理解を深める。	3後	90	3	○			○		○		
○			検定対策Ⅲ	動物看護師統一認定試験の出題傾向を認識し、さまざまな過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。	3前	30	1		○		○		○		
○			就職実務Ⅲ	就職対策を実施し、就職内定を円滑にいただける様に準備をする。	3前	30	1	○			○		○		
○			特別課外授業	学校行事やボランティアなどの参加、運営を通じてチームワークの大切さや協調性および積極性を身につける。	3通年	60	2			○		○	○		
合計				7科目	420単位時間 (14単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で840時間(30単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,680時間(60単位)以上の単位を取得した者。③3年制課程において2,490時間(89単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。